

【A】 次の傍線部の書き下し文として最も適当なものを選び。

1 母^レ懐^ニ憊^ニ 倅^ノ 之^ヲ 凶^ク 勿^ク 以^テ 枉^ニ 屈^ニ 為^ス 慮^ヲ。(竹窓隨筆)

【注】倅(まぐれ) 屈(不運)

- ① 枉屈を以て慮と為すこと勿かれ。
- ② 慮と為すこと勿きを以て枉屈とす。
- ③ 勿として枉屈を以て慮とす。
- ④ 為す勿くして枉屈を以て慮とす。

2 子^ハ 非^ズ 魚^ニ 安^ニ 知^ル 魚^ノ 之^ノ 樂^ヲ。(莊子)

- ① やすんじてうをのたのしみをしりぬ。
- ② うをのたのしみをしるはやすし。
- ③ あにうをのたのしみをしらん。
- ④ いづくんぞうをのたのしみをしらん。
- ⑤ いづくにかうをのたのしみをしるや。

3 自^レ 古^ク 及^テ 今^ニ 未^ダ 嘗^ハ 聞^ク。(漢書)

- ① いまだこれがかつてきかず
- ② いまだこれあることをきかず
- ③ いまだかつてきくことあり
- ④ いまだかつてこれをきく
- ⑤ いまだこれがかつてせずときく

4 未^ダ 嘗^ハ 干^ケ 之^ヲ 不^レ 可^ク 謂^フ 上^ニ 無^ク 其^ノ 人^ヲ。(与于襄陽書)

- ① 上に謂ふべからずして其の人無し。
- ② 上に其の人無くんば謂ふべからず。
- ③ 上に其の人と無く謂ふべからず。
- ④ 上に謂ふべからずんば其の人無きや。
- ⑤ 上に謂ひて其の人を無からしむべからず。
- ⑥ 上に其の人無しと謂ふべからず。

【B】 次の傍線部を書き下し文にせよ。

5 其^ノ 勝^ル 人^ニ 处^ニ 不^レ 必^ズ 在^リ 用^ニ 生^字 也^{ナリ}。(五山堂詩話)

【注】生字(見慣れない奇抜な文字)

【C】 次の傍線部をすべてひらがなで書き下し文にせよ。

6 乳^ノ 母^ノ 所^レ 言^フ 未^ダ 嘗^ハ 不^レ 聴^ク。(史記)

7 則^チ 不^レ 能^ク 不^レ 争^フ。(荀子)

【D】 書き下し文に従って次の傍線部に返り点を付けよ。

8 次の傍線部を「臣の先後を為す者莫し」と読むには、どのような返り点をつければよいか。
莫^シ 為^ス 臣^ノ 先^ノ 後^ノ 者^ヲ。(戦国策)

【E】 次の傍線部に返り点を付けよ。

9 感^ズ 物^ニ 凄^シ 然^{トシテ} 有^リ 不^レ 勝^ル 懷^ノ 者^ヲ。(贈別王文甫)

【F】 次の傍線部の意味として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

10 況^{シヤ} 事^ノ 之^ノ 多^ク 端^{ナリ} 有^リ 可^キ 得^ル 而^{シテ} 知^ル 者^ト 矣^{ナリ}。(論語古義)

- ① 知っておいてよいものがある。
- ② 知らなければならぬものがある。
- ③ 知ることのできるものがある。
- ④ 手に入れて知る必要があるものがある。

11 何^レ 追^フ 者^ノ 之^ノ 衆^ク。(列子)

- ① どうして追いかける者がそんなに多いのか。
- ② 何を追いかける者が一番多かったか。
- ③ どうして追いかける者が多すぎることがあろうか。
- ④ どのように追いかける者が多いのか。
- ⑤ どうして追いかけることがそんなにしばしばなのか。

【G】 次の傍線部の口語訳として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

12 百^ノ 獸^ノ 見^テ 我^ヲ 而^{シテ} 敢^テ 不^レ 走^ル 乎^ヤ。(戦国策)

- ① 敢然と競わぬはずがない
- ② 逃げ出さないでおられようか
- ③ 無理に疾走するかどうか
- ④ (身が凍んでしまって)逃げることなどできるかどうか

13 聖^ノ 人^ノ 所^レ 不^レ 知^ル 未^ダ 必^ズ 不^レ 知^ル 愚^ノ 人^ノ 所^レ 知^ル 也^{ナリ}。(劉孟涂集)

- ① 聖人の知らないことは、もちろん愚人も知るはずがない。
- ② 聖人の知恵の及ばない所でこそ、愚人の知恵が生きる。
- ③ 聖人の知恵の及んでいない所には、愚人の知恵が反映されている。
- ④ 聖人の知らないことでも、愚人が知っている場合がある。
- ⑤ 聖人の関知しないことを、逆に愚人は必ず気にしている。

14 家^ノ 貧^シ 不^レ 常^ク 得^ル 油^ヲ。(蒙求)

- ① 家が貧しいため、いつも燈火の油を手に入れることができなかった。
- ② 家はいつも貧しいわけではなく、燈火の油が買えることもあった。
- ③ 家は貧しくなく、いつも燈火の油を手に入れることができた。
- ④ 家が貧しくて、ときどき燈火の油を買えないことがあった。

14 [] []

13 [] []

12 [] []

11 [] []

10 [] []

7 [] []

6 [] []

5 [] []

4 [] []

3 [] []

2 [] []

1 [] []

解答

〔漢文①〕 国語頻出問題2004訂版 P324～P341

- 1 「①」〔第10章・23〕
- 2 「④」〔第10章・43〕
- 3 「①」〔第10章・6〕
- 4 「⑥」〔第10章・24〕
- 5 「必ずしも生字を用ふるに在らざるなり。」〔第10章・28〕
- 6 「いまだかつてきかずんはあらず。」〔第10章・37〕
- 7 「あらずはざるあたはず。」〔第10章・35〕
- 8 「莫_レ為_二臣_一先後_レ者。」〔第10章・22〕
- 9 「有_二不_レ勝_レ懐_レ者。」〔第10章・16〕
- 10 「③」〔第10章・19〕
- 11 「①」〔第10章・40〕
- 12 「②」〔第10章・54〕
- 13 「④」〔第10章・38〕
- 14 「④」〔第10章・27〕